

I Love Churui

I ♥ ちゅうるい



4月1日～14日までの間、忠類地域の飲食店とJAが地域活性化を目的に飲食店が提供するウェルカムドリンクとしてパオ君グラスによる牛乳のおもてなしを実施しました。

Contents

第40回酪農部会定期総会	2
第57回JA忠類青年部定期総会	
第56回忠類ゆり根耕作組合定期総会	3
第72回通常総会	4
第1回～第3回理事会	
職員退職挨拶	6
普及センター技術情報	7
JAグループ北海道座談会	8
生乳生産状況表	12
菜の館ベジタ2020営業カレンダー	13



<http://www.ja-churui.com>



第四十回 酪農部会 定期総会開催される

J A 忠類酪農部会は、四月十日に会員九名出席のもと第四十回定期総会を行いました。

渡辺部会長の開催挨拶に続き、蛭原代表理事組合長、幕別町役場忠類総合支所経済建設課広田産業振興係長、二名の来賓紹介の後、議事へと進行了ました。

第一号議案（令和元年度事業報告並びに収支決算報告の承認について）、第二号議案（令和二年度事業計画ならびに収支予算案の承認について）が協議され、原案通り承認されました。



令和二年二月以降、コロナウイルスの影響により、研修会等各種行事が中止となりましたが、本年度についても、今後の情勢を踏まえ、行事の開催時期を検討して参ります。

第三号議案では役員の改選が行われ令和二年度の役員は次の通り決定されました。

部会長 渡辺 靖之（再任）

副部会長 井田寿美恵（再任）

副部会長 多田 篤（再任）

監事 安宅 邦博（再任）

監事 大和 章二（再任）

また、総会後に乳質改善共励会褒章式が行われました。

共励会の受賞者は次の通り。

（最優秀賞）

遠藤 貴之（東 宝）

（優秀賞）

株オンザヒル東口（元忠類）

（優良賞）

（有）黒坂牧場（東 宝）

東口 隆弘（元忠類）

大石 幸男（豊 成）

JA YOUTH 第57回 J A 忠類青年部定期総会

J A 忠類青年部（部長梅津昌訓）は、三月四日（水）に第57回定期総会を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの被害の拡大に伴い、開催を中止し書面での議決となりました。

議案第一号 平成三十一年度事業報告並びに収支決算の承認について

議案第二号 令和二年度事業計画並びに収支予算（案）の設定について

議案第三号 役員の改選について

全議案が書面議決にて原案通り承認されました。

令和二年度役員に以下の方々が選出されました。

【令和二年度新役員】

部長 大澤 憲人（新）

副部長 杉坂 一樹（新）

理事 和田 英樹（再）

〃 渡邊 貴文（新）

監事 梅津 昌訓（再）

〃 井上 洋平（新）

新採用職員紹介

管理部管理課兼審査課

田口 大貴

（幕別町札内出身）
四月一日付け採用



営農部生産販売課畜産担当

田中 空良

（音更町出身）
四月一日付け採用



第五十六回 忠類ゆり根耕作組合定期総会

令和二年三月二十五日（水）午後四時より、農協二階研修室において、第五十六回忠類ゆり根耕作組合定期総会が開催され、本年に至っては、コロナウイルスの影響により規模縮小となりました。

野村組合長の開会挨拶に始まり、議事へと進行了しました。

議長には芹沢勇治さん（上当）が選出され、一号議案（令和元年度事業報告並びに収支決算の承認）、二号議案



（令和二年度事業計画並びに収支予算案の設定）について協議し、一号二号議案とも原案通り承認されました。

令和元年度の忠類産食用ゆり根については、四〜五月にかけては日照時間も長く降水量は平年を大きく下回り干ばつ傾向となり生育不足が散見され、六月〜八月にかけては曇天降雨の影響により干ばつ状況は改善されましたが、生理障害や生育不足が懸念されておりました。

出荷量につきましては、七十三、九トンと前年対比を上回り、価格はkg単価、平均千円と前年並みとなりました。

令和二年度の事業計画と致しましては、栽培技術の平準化や各関係機関との相互協力のもと、各種試験の取り組みや選果基準の徹底、農産物直売所への継続的な出品体制にも尽力し、令和二年度の主な行事として、視察研修の実施、全道生産者大会、どんとこいむら祭り、とかち大収穫祭つまいもまつり等イベントを計画しています。

「菜の館ベジタ」がオープンしました！

JA忠類農畜産物直売所「菜の館ベジタ」が、令和二年五月九日に本年度の営業を開始致しました。

当初は、四月下旬のオープン予定ではありましたが、コロナウイルスの影響により、「緊急事態宣言」が発令され、オープンの延期を余儀なくされましたが、営業時間の短縮やコロナウイルスの対応を徹底することとし、オープンを迎えました。

店内では、忠類の田子豆腐店より豆腐・油揚げ、幕別町の木川商店の忠



類産のゆり根を使用したコロケ・どろぶたのメンチカツ、新たに中札内若どり等、オープン初日より好評な売れ行きとなりました。

オープンしてから約一ヶ月を迎え、忠類区域内の生産者の作物も多く店頭に並んで来ておりますので、今後も沢山のお客様にご来店頂けますよう、職員・生産者一同、より良い直売所作りを目指して参ります。今年の営業は十一月八日までとなっております。

定休日については、毎月第二第四曜日・毎週水曜日が定休日となり、八月十一日を臨時休業とさせていただきます。

営業時間につきましては、五月末まで営業時間の短縮とさせていただきます、午前十時〜午後三時まで、六月〜九月末まで、午前九時三十分〜午後五時まで営業、十月以降につきましては午前九時三十分〜午後四時まで営業しております。

沢山のお客様のご来店お待ちしております。



第72回通常総会開催

コロナ対策のため議決権行使書面を推奨した異例の開催
～原案どおり全10議案可決承認される～



組合員百二十名のうち、役員のみ本人出席七名、議決権行使書面百一名を含め百八名出席のものと開会が宣言されました。

JA綱領の朗唱、蛭原代表理事組合長の開会挨拶を省略し、議長に上岡農事組合 山下浩昭理事が選出され採決が行われました。定款、信用事業規程、施設等整備積立金の変更、令和元年度の事業報告と剰余金処分案、第八次中期総合計画の設定、役員補欠選任など全十議案が原案通り賛成多数で可決承認されました。

四月二十八日午前十時より、JA忠類2F農業研修センターにて第七十二回通常総会が開催された。
本総会は、新型コロナウイルス感染症拡大が続いている状況を踏まえ、規模縮小による無来賓、議決権行使書面による議決を基本とする異例の開催となり、正

十七億二千万円。畜産物は前年比一七・七％増の五億六千五百万円となりました。農産物は周期的な気象変動により生育が停滞するなど厳しい気象条件ではありましたが、一部野菜の市況低迷を除いては計画を上回る取扱実績となり、前年比十五・二％増の六億二千万円となりました。

令和元年度当期未処分利益剰余金は一億二千八百五十九万円、そのうち出資配当を含めた事業分量配当金に四千七百五十五万円を充当、利益準備金・任意積立金の内部留保に五千五百二十万円、次期繰越として二千五百八十四万円とすることで承認されました。

今年度から五カ年の第八次中期総合計画は、「豊かな生産基盤の確立と魅力ある農業経営を目指して」を基本方針に、五つの基本目標を掲げ取り組んでいくことで承認されました。

蛭原代表理事組合長は、「新型コロナウイルスの感染拡大が農業にどのような影響を与える

か、先行きは不透明ですが、既に当地域においても外国人技能実習生が入国できないことによる人手不足や和牛枝肉・素牛価格の下落など影響が出て来ている。一刻も早い終息を願うとともに、豊穣の出来秋を組合員皆で迎えられる年であることを心から念願しています。

JAを取り巻く環境は厳しい状況ですが、先ほどご承認いただいた第八次中期総合計画を基本に、組合員が将来に安心して営農が継続出来、次世代につなげる持続可能な農業の実現に向け、一步一步ではあります。着実に実践して参りたいと思っております。今後とも組合員の協力をいただき、役職員が一丸となつて計画達成に向け事業運営を行つて参ります。

新型コロナウイルス対策として職員の体調管理や感染予防には万全を期して参りますが、組合員におかれましても同様の徹底をお願いするとともに、皆でこの難局を乗り越えて行きたいと思っております。」と閉会挨拶。

第一回 理事会

開催日 令和二年三月六日

付議事項

議案第一号 J A懇談会の開催について

議案第二号 第七十二回通常総会の招集と開催要領について

議案第三号 幕別町森林組合出資配当に伴う出資増口について

議案第四号 経営定期点検実施計画書の策定について

議案第五号 コンプライアンス・プログラムの策定について

議案第六号 余裕金運用方針および運用計画について

議案第七号 内部監査計画書の策定について

議案第八号 理事の利益相反取引に対する包括事前承認について

議案第九号 施設等整備積立金の変更について

議案第十号 農業委員会委員の団体推薦について

議案第十一号 役員補欠選任に伴う理事会（学識経験区）推薦候補者の決定について

議案第十二号 信用事業規程の一部変更について

議案第十三号 信用供与等の限度額および貸付金利率の最高限度について

議案第十四号 事業計画の設定並びに固定資産の取得について

議案第十五号 手数料率および各種負担金の設定について

協議事項
一. 生産資材倉庫の管理委託および専属委託契約の更新について

報告事項
一. 生乳生産状況について

二. 経営対策プロジェクトチームの編成について

三. 理事と組合の間における「利益相反取引」に伴う実績報告について

四. コンプライアンス・プログラム実践状況報告について

五. 第4四半期（期末）余裕金運用実績について
六. 内部監査業務報告について

七. 監査計画書の策定について

第二回 理事会

開催日 令和二年三月十九日

付議事項

議案第一号 生産資材倉庫の管理委託および専属運送契約の締結について

議案第二号 生乳輸送業務請負契約の締結について

議案第三号 リスク評価書の改正について

議案第四号 資産査定の実施について

議案第五号 役員の選任について
（総会議案）

報告事項
一. 役員辞任報告について

二. 役員候補者の推薦決定について

三. 乳質自主規制金の使途内容の報告について

四. 第七次中期総合計画との実績対比について
五. J Aバンク相談・苦情等対応状況報告について
六. J A共済相談・苦情等対応状況報告について

六. 経営定期点検結果について

七. 職員異動報告について

第三回 理事会

開催日 令和二年四月三日

付議事項

議案第一号 第八次中期総合計画の設定について

議案第二号 令和元年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、税効果

積立金の取崩および注記表の承認並びに監事監査報告について

議案第三号 第七十二回通常総会提出議案について

議案第四号 第七十二回通常総会議決権行使書面の取扱いについて

議案第五号 J A懇談会の開催変更について

議案第六号 第七十二回通常総会の招集と開催要領の変更に

報告事項

一. 決算監査報告について
二. 人事異動の発令について



定年退職にあたって

五十嵐 勉



昨年八月に満六十歳に到達し、三月末日に定年を迎え、再雇用を希望せず、忠類農業協同組合を退職いたしました。

また、信用担当の職員兼務理事であるため、理事の補欠選任などの手続きに際しましては、組合員をはじめ役職員の皆様に多大なご負担をおかけいたしております。さて、昭和五十三年四月に当時の忠類村農業協同組合に奉職の後、営農部、管理部、経済部、金融部と四十二年間勤務させていただきました。

組合員の皆様、先輩諸氏から色々とお世話いただき、時には厳しく、時には苦楽をともに自分

も成長し、地域の農業振興のため微力ながらお手伝いをさせていただき、この日を迎えることが出来ましたこと心から感謝申し上げます。

この間、離農、経営継承を経て組合員経済の向上はもとより、近年は、大規模化、法人化、TMR飼料センターなどシステム化はすすみ、地域農業の姿は大きく変わって参りました。さらに今後は、AIの導入など、農業の現場は次々と変わっていくものと思えます。アナログ人間にとっては、未知の世界であります。

どんなに時代が進んでも「人」が行うべきことは不変と思えます。

システムに溺れないように人間力をしっかり養って欲しいものです。

厳しい時代という言い方は、耳慣れしてしまいましたが、今後は、経験したことのない時代がやって来るかもしれません。

まさに、新型コロナウイルスによる感染拡大が世界を震撼させていることも、全く予想もしなかつ

た出来事と言えるでしょう。

人の動きが止まることによる経済の停滞は、世界的にも前例の無い事態になってきました。一刻も早い終息を願うとともに、全ての人に平穏な日常が戻るようお願いいたします。

今後、それぞれの立場で人生を振り返ったときに新型コロナウイルス禍が、笑い飛ばせる記憶に終わって欲しいと切に願っております。

きつと、苦しいときの経験が力になるときが来ると思っています。「一人の百歩より、百人の一步。」地域の底上げは、一人ひとりの力の結集と思えます。農業協同組合の精神そのものと思えます。

この精神の深さ、人づくりの尊さを今だから解く必要がありそうです。

終わりになりますが、組合員の皆様、組合役職員の皆様のご健康と忠類農業協同組合の益々のご発展をお祈り申し上げ、粗辞ではございますが退職に際しての感謝のご挨拶とさせていただきます。

お天気カレンダー

気象予報士(株式会社ハレック) ● 檜山靖洋

懐かしい霧笛



海霧は、暖かく湿った空気が冷たい海の上で冷やされ生じる移流霧という種類の霧です。これから夏にかけて、北海道から東北の太平洋側でよく発生します。

かつては、霧で視界が悪いときに音を鳴らし、船に位置を知らせる「霧笛(むてき)」が活躍しました。1968年には国内に53基ありましたが、2010年3月までに全て廃止となりました。レーダーやGPSの普及で、霧に対しては「無敵」となり、霧笛は必要なくなりました。

気象観測でも、昔ながらのやり方がなくなりつつあります。天気や気象現象の観測のうち、目視で行ってきた観測項目の多くが機械による自動観測に切り替えられました。自動化することで、人間の力は防災業務などに集中することができ、効率化が図られます。

仕方のないこととはいえ、昔ながらのやり方がなくなりつつあるのは、どこか寂しい感じがしますね。



乳牛の栄養管理（粗飼料が不足する時期への対応）

昨年収穫した粗飼料は、十分に確保できていますか？

1番牧草収穫までの端境期にあたる現在、粗飼料は不足していませんか？

乳牛の給餌形態は、農場ごとに様々です。フリーストールの場合：TMR (Total Mixed Ration)、つなぎ牛舎の場合：分離給与、搾乳ロボットの場合：PMR (Partly Mixed Ration) で、給餌されていることが多いかと思います。

しかし、いずれの給餌形態でも、粗飼料が不足している時期の乳牛の栄養管理には、同様の対応が必要になります。

1. 粗飼料の代替えは、粗飼料でおこないましょう。

道産の乾草・ラップサイレージ・細断サイレージ（グラス・コーン）で置き換え、または、輸入粗飼料への置き換えも可能です。道産品で置き換える場合は、栄養成分と乾物率が変動しますので、飼料分析することをお勧めします。近年、NDF（中性デタージェント繊維）の分析が細分化され、ルーメン内での消化スピード・消化率の項目が追加されました。十勝農協連の分析センターにおいては、令和2年1月より分析が可能となりました。今後は、NDF含量だけでなく消化スピード・消化率に考慮した粗飼料を組み合わせることで、更なる飼料効率の向上が見込まれます。

2. セインが多く含まれる単体飼料で代替えしましょう。

粗飼料の入手が難しい場合は、セイン含量が高くデンプン含量が低い飼料を代替えて対応しましょう。代表的なものとして、下記の飼料が挙げられます。

ビートパルプ・シトラスパルプ・リンゴ粕・豆皮・ビール粕・ウイスキー粕等。

3. ルーメン発酵を介さない単体飼料や資材を給与しましょう

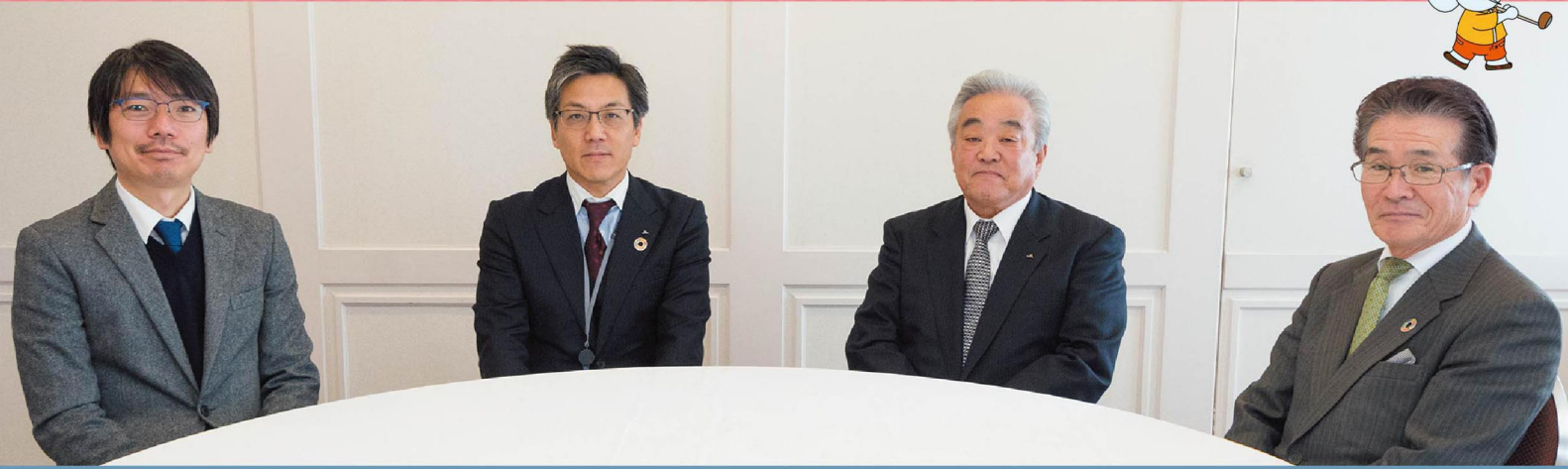
高泌乳牛群でより多くのエネルギー・タンパク質を必要とする場合や、暑熱時等、乾物摂取量が低下しやすい時期は、ルーメンをバイパスする飼料を給与しましょう。代表的なものとして、下記の飼料・資材が挙げられます。

エネルギー飼料：加熱大豆・綿実・バイパス油脂製剤

タンパク飼料：加熱大豆・コーングルテンミール・アルファルファペレット

加熱大豆粕：商品名「ソイパス・アミックスS・ソイプラス」

それぞれ、飼料の栄養成分が異なりますので給与する際は、農協またはお近くの普及センターまでお問い合わせ下さい。また、通年流通していない飼料もありますので、使用する際は、農協資材課にご確認下さい。



JAグループ北海道座談会 持続可能なJAの事業運営を考える(上)

信用事業のあり方をめぐり、道内108JAでは2019年4月までに①単独②合併③信用事業譲渡(代理店化)の3つの選択肢に基づく検討が行われた。農協改革集中推進期間が終了する一方、マイナス金利の長期化に伴い、信用事業における奨励金水準の段階的な引き下げが始まる。JAをめぐる環境の変化を踏まえ、今後も持続可能な経営基盤をどう維持していくのか。北海道大学・小林国之大准教授の進行で、「持続可能なJAの事業運営」について道内JA関係者にご議論いただいた。

【出席者】

小林 国之大

北海道大学大学院農学研究院准教授

柴田 倫宏

JA北海道中央会専務理事

宮本 英靖

JAピンネ代表理事組合長

佐藤 正昭

JAこしみず代表理事組合長

出典:『北海協同組合通信2020新春特集号』
「持続可能なJAの事業運営」北海道協同組合通信社

信用事業は全道で約35億円の減少

小林 今日のテーマは「持続可能なJAの事業運営」。農協改革については、JAグループの自己改革に一定の評価も出てきているが、経営

の視点から見ると、これからかなりシビアな状況が予想される。特に20年度から農林中金の奨励金引き下げが始まり、金融事業を中心とした都府県のJAだけではなく、農地帯の北海道のJAにとっても非常に大きな課題になっている。まずは農協改革や金融環境の変化を踏まえた農協経営のあり方として、全道の方向性と各JAの取り組みなどをうかがいたい。最初に中央会が19年4月に取りまとめた各JAのあり方検討の状況を。

柴田 5年間の農協改革集中推進期間が19年5月に終了し、ひとつの区切りがつけられたが、この間にいろいろな改革を求められてきた。同時に、金融情勢もマイナス金利が長期化し、日本の経済システムが大きく変わり、そこに農協も飲み込まれつつある。持続可能な事業運営に向けて全道108農協の皆さんはどう考えていくのかということ、農林中金の奨励金引き下げを前提

にそれぞれシミュレーションしてもらい、単独、合併、信用事業譲渡の3つの選択肢も示しながら、19年4月までに各農協で再点検していただいた経過にある。

その結果、108農協のうち、コスト削減や販売強化などに取り組みながら、単独の総合事業体としてやっていくと回答したのは94農協で、このほか事業基盤強化のため合併を検討したいと回答したのは11農協だった。このうち8農協はすでに合併検討委員会などの枠組みがあるが、枠組みなしのところも3農協含まれている。また、あり方検討とは事情が異なるが、日高の3農協が信用事業譲渡を選択している。

なお、検討に当たっては、農林中金やJA道信連からの還元率を一律で設定し、各農協の中期計画などをもとに2023年度の収支見通しをシミュレーションしていただいた。日高3農協を除く105農協の部門別事業利益を見ると、17年度と比較して信用事業は全道で約35億円のマイナスが見込まれるほか、共済事業も長期共済保有高の減少により収益率が下がるため約11億円減、購買事業も約12億円減。このほか、販売事業利益は微増の2億円、その



小林 国之
(こばやし・くにゆき)

1975年北海道生まれ。北海道大学大学院農学研究科を修了後、助教を経て2016年から現職。地域連携経済学研究室。主著は「ホクレン販売事業にみる経済連の組織機構と機能」「総合農協のレーゾンテール」「北海道から農協改革を問う」など。

えている。

小林 しかし、5000万円というのは大きな額だ。畑作・酪農地帯に比べて水田地帯は貯貸率が低く、預金運用が中心。よ

り大変なのではないか。

他が9億円増で、事業総利益全体では約47億円のマイナスとなっている。これに対し、事業管理費は12億円増えるため、経常利益は71億円のマイナス。17年度と比較して35%ほど厳しくなるという結果が出ている。

宮本 当農協でも影響は大きく、シミュレーションの結果、22年には現行と比較すると信連からの奨励金で約5000万円ほど落ちる。しかし、今までも農協本来の姿は、組合員の結集があつて、われわれが農産物をしっかり集荷して有利販売することが第一で、この農産物の販売が金融・共済、経済事業につなが

が、それによって農協への結集と集荷率の向上が図られ、その延長で金融、共済事業に結びついていけばいいと考えている。実際に渉外課を

代の変化は。

始めてから販売高は2億5000万円ほど伸びてきた。こうした取り組みを進めていくことがこれからの農協経営にとって重要だと考えている。

小林 ピンネの営農渉外課は、全国的に見るとTACに近い仕組みだと思う。組合員との関係性や若い世代の変化は。

宮本 営農渉外課の組合員訪問は毎日のことなので、特に何も用意せずにかがうことが多いが、その中で、基本的に農協は皆さんが

2006年に営農センターを立ち上げ、営農部と農産部をひとつの組織に入れると同時に、営農部の中に営農渉外課を設けた。このスタッフは4人で、仕事は農家回りが専属。中身は生産資材の推進、営農相談、農作業の人材派遣とさまざまだが、それによって農協への結集と集荷率の向上が図られ、その延長で金融、共済事業に結びついていけばいいと考えている。実際に渉外課を

少しずつ変わってきた気がする。また、以前は渉外課に女性スタッフがお母さんや娘さんなどの相談ごとを聞くことができた。



柴田 倫宏
(しばた・みちひろ)

1966年生まれ。北海道大学農学部卒。88年北農中央会入会、90年函館支所、95年帯広支所、99年農業対策部畑作農業課、2006年札幌支所、09年基本農政対策室、12年農業対策部畑作農業課長、13年同酪農畜産課長、16年東京事務所長、17年常務理事、19年9月から現職。

ここは職員の配置を工夫しながら将来に向け再設置を考えている。

小林 全国的に見ても農家の女性の声をきちんとくみ上げるとい

宮本 それは渉外課とはまた別の「相談機能」という組織体で、121人の職員を5人平均で21班に分け、管内全地区に割り振り、春は米の契約や水田の作付け、秋は集荷体制の相談などに出向いているもの。農協からの押し付けではなく、組合員からも頼りにされており、逆に「来てくれ」と言われて行くこともある。



宮本 英靖
(みやもと・ひでやす)

1953年生まれ。拓殖大学北海道短期大学卒。99年にJAピンネ監事、2002年代表理事専務を経て、08年から現職。17年からは空知農協連副会長、空知管内農協組合長会副会長、ホクレン理事を務める。道農協米対策本部委員。

佐藤 問題は、われわれは金融農協ではなく、販売農協だということ。まずそこをしっかりとやっていかないといけない。農協は金融・共済で成り立っていると見られがちで、もちろん金融の利益もあるが、基本は営農指導であり、それによって農家の皆さんの生産力を上げていくための組織。常にそこを真ん中に置いてやっていくことが大切だ。さりとて、金融・共済は農家組合員だけでなく地域住民からも頼りにされている。うちも准組合員が6割以上を占め、地域住民に支えられている部分がある。小清水には郵便局と借金もあるが、金融のシェアは農協が約7割。地域住民の生活を守るために必要な組織になっている。

シミュレーションについては、うちは交付金を入れた年間の売上が140億円ほどあり、貯金は260億円ぐらい扱っているが、5年後に

は事業利益が約5000万円減る。その先はもつと減る可能性もある。しかし、そこは工夫次第だろう。当然これからも金融事業は譲渡せずにしつかりやる。

ただ、営農指導の中身を細かく見ると、土地の売買から税金対策、農作業事故の対応、さらには冠婚葬祭や高齢者の悩みごとの相談など、相当幅広いことをやっている。これから金融・共済が厳しくなっていくとすれば、そこは組合員にきちんと説明し、営農指導はすべて無償という認識は、少しずつ変えてもらわなければならぬだろう。そのためにも、組合員に正確な情報を伝えるということが大切。今は当たり前前になつていることも、実は当たり前前ではないということも伝えることが大事だと思ふ。

小林 組合員の理解や教育という面で、小清水は地域の歴史を組合員に伝えるなど積極的に取り組んでいる。

佐藤 そこを一生懸命やらないと、自分でどこまでできたような感覚になって、ひとりでもできると錯覚する人が出てきてし



佐藤 正昭
(さとう・まさあき)

1948年生まれ。93年JAこしみず理事、02年から現職。08年からホクレン理事、11年からオホーツク農協組合長会会長、オホーツク農協連代表理事会会長、JA道中央会理事、JA全農総代などを務める。

まう。先ほど米の集荷の話があったが、うちは畑作3品が中心なので少し違うけれども、系統利用が当たり前という空気をつくっておくことは大切。生産部会などでも、ただ罰則規定を設けたのでは「ペナルティを払えばいいだろう」という話になるが、そうではなく、皆で決めたことは皆で守り、地域で守るという意識を持つてもらわなければ。それが寄り集まって農協への結果につながる。そのためには農協としても組合員が何を求めているのかを知り、いかにしてこちらを向いてもらうか、ということが一番大事になってくると思ふ。

農政運動の重要性を再確認

小林 一連の農協改革の動きについて、実際に組合員の人たちはどれくらい危機意識を持っているのだろうか。例えば中央会の連合会化

など、人ごとのような思いがあるとするれば、そこは問題だと思ふ。

佐藤 多くの組合員にとつては人ごとだろう。しかし気にしている部分はあるし、よく言えば、組合長や役員に任せれば、組合長や役員に任せておけば安心だと思ってくれているのかもしれない。それが人ごとではないと伝えるには、ひとつは組合員教育をやつて、政治に興味を持ってもらう努力をすることだろう。小清水では5年ほど前に農民連盟が解散したが、そうなるかと組合員が勉強する場所もなくなつてしまった。そのため新たに農政協議会をつくり勉強してもらっている。北海道の農業は交付金の割合が大きく、中央会を中心とした農政活動があつて初めて経営が成り立つ。決して自分ひとりの力で生活できているわけではない。そこはきちんと制度を含めて教えていかなければ。

ただ、今はいろいろなところから情報が入るし、農業団体と同じような活動をする組織も始めている。そうすると、われわれが国に要請してやつと積み上げてきたものが、メールなどですぐ手に入る。それも

言ってみれば情報のいいところ取りで、農協も農連も関係ないという人が出てくることになる。これから先はそういうところにも注意を払っていかねばならない。

小林 中央会も9月から連合会となったが、北海道のJAグループを代表する組織として、これまで中央会が果たしてきた機能や役割、存在意義などを、末端の組合員にも見えるような形に変え、発信していく必要がある。

柴田 中央会も連合会になってスリム化しなければならぬし、やるべきことはきちんとやらなければならぬ。そういう思いで19年4月に第4次中期計画を立て、3つの基幹事業とともに、農政事業を重点事業として位置づけた。その中で特に農政運動については、かつてのガット・ウルグアイラウンドの時代は、外圧を利用して自ら勉強し、組織に結集するという、まさに協同組合運動の原点とも言わなければならない。WTOが空中分解して2国間の経済連携に移ってきたところから、後の農協改革の影響などもあり、運動の機会が少なくなってきたのは事実。中央会が進むべき道は中期計画に示したが、組合員教

育を含めた具体的な運動のあり方なども考えていく必要があるだろう。

佐藤 私が組合長になった当時はWTOがあり、よく全道の組合長の皆さんと一緒に運動に出た。国にも要請に行ったり、全国大会などにも参加した。しかし最近はそのような機会が減り、参加する組合長も少なくなっている。こういうものは自分でも参加して経験することによって、組合員に対してしっかりと説明できるようになる。農政運動の中でもそこが今、非常に足りないところだと思う。

柴田 農業団体が大会や集会を開催すると、外からは「こぶしを挙げている」と見られてしまうかもしれないが、実際はそれにより組織内の結果が高まったり、地元に戻ったときにより正確な情報を組合員に伝えられるという側面もある。そこをもう一度考え直さなければいけないのかもしれない。JA全中主催の大会も開かれなくなったが、ここ2年「全国フォーラム」という名前で開催しており、農政運動に対する危機意識の表れだと思う。

佐藤 そこは形を変えてでもやらないとだめだ。農協改革の中でひとつよかったのは、うちの組合員は

中央会の役割を理解してくれている。ホクレンに対してはいろいろ言うが、「中央会は絶対に必要な組織」という理解が組合員にあったこと。正直意外だったがすごくうれしかった。やはり農政活動をしつかりやっていることが伝わっているのだと思う。非常に大事なことであり、ここを緩めてはいけない。

柴田 農協というのは経済事業体であると同時に運動体であり、手法を含めて運動体の部分をやや疎かにしてきたことが、今日の組合員の組織離れを招いている可能性もあり、そこは中央会の役割が大きい。しつかりやらねばならない。

小林 なかなか伝わりにくい部分であり、特に比較的若い世代は農政運動という言葉に距離を置きたがる場所があるが、北海道の場合、農政運動の成果として手にしてきたものは非常に大きい。しかし最近個人が自由にやることを助長する仕組みになっていて、国が示す政策の方向に沿い「それにどう合わせるか」という手法が変わってきているように見えるが。

柴田 確かに、畑作物などは当時の品目横断など北海道主導で仕組みをつくってきたが、米は全国の仕

組みの中でどう北海道に合った運用にしていくかというのが、最近の動きになってきている。特に米政策の見直しが始まったここ数年、農政運動の中で農水省とも意見交換を重ねながら、北海道が求める具体的な仕組みを北海道提案型で強く誘導してきた部分がある。

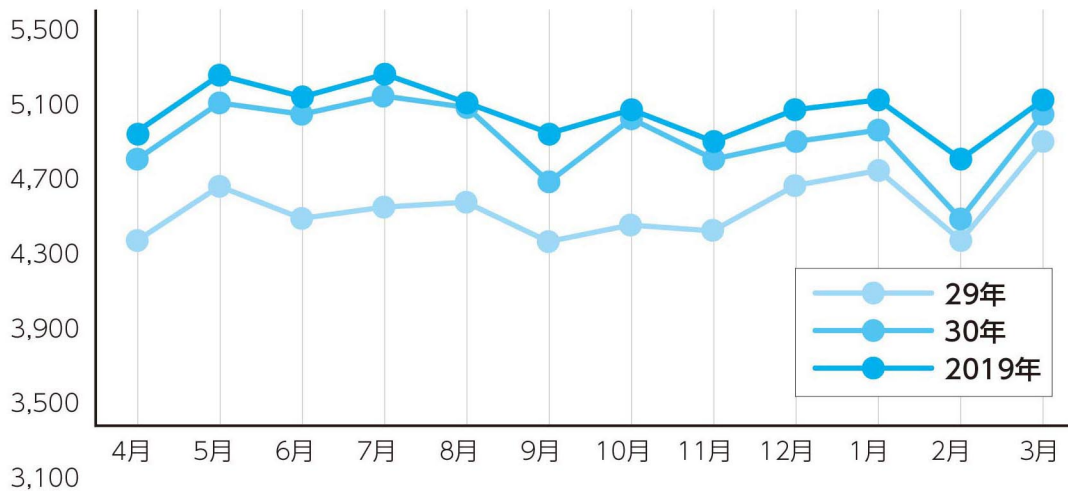
宮本 具体的には、全国一律の米政策の中で、産地交付金について地域でフリーに配分できるような仕組みを要望し、道枠と地域枠というやり方で対応してもらったのが大きなポイントだと思う。また米の作付面積に関しても、加工用米などのいわゆる水張り転作に地域で自由に組み組めるようになってきているが、これもわれわれが要請しながら、農水省と一緒に仕組みをつくってきたもの。ここはもう少し広げていきたいと思っている。

小林 これからもそうした地道な農政運動の成果を地域農業の振興や農協事業に結びつけていくことが重要。ただ、本来はそれらがすべて一体となって展開してきたのが日本の農協の特質であり、今はそこが分断されてきているという課題もある。

(つづく)



生乳生産状況表



ホクレン十勝家畜市場だより



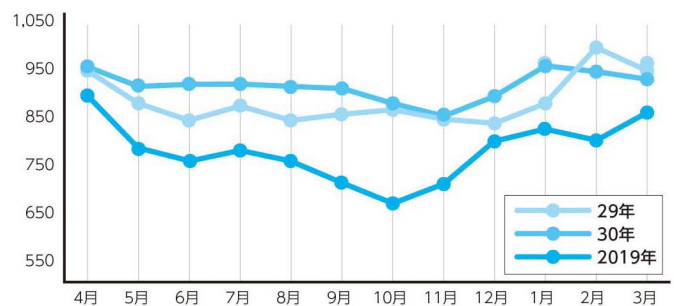
乳牛

- 売買頭数：892頭 (成立87.0%)
- 平均価格 (税込)：861千円 (先月比↑60、前年比↓62)

相場予想

先月の平均価格は、全国的に導入需要が高まったため、相場は強含みで推移しました。今月は、春産みから夏産みへの移行の時期になるため平均価格は横ばいもしくは弱含みで推移すると考えられます。

乳牛市場〈初妊牛〉平均価格の推移



黒毛和種・F1

結果速報

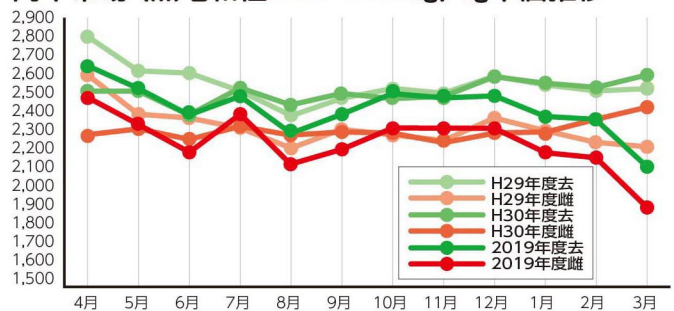
● 売買頭数

- 黒毛和種去勢 **868頭** (成立85.2%)
- 乳用交雑種去勢 **1,129頭** (成立88.2%)
- 黒毛和種雌 **588頭** (成立83.1%)
- 乳用交雑種雌 **988頭** (成立91.8%)

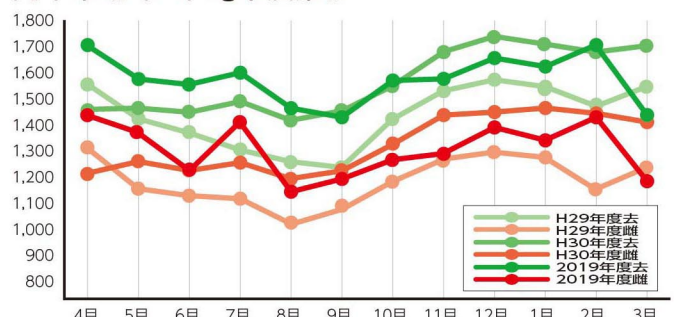
● kg単価

- 黒毛和種去勢 **2,097円** (先月比 ↓ 245)
- 乳用交雑種去勢 **1,431円** (先月比 ↓ 284)
- 黒毛和種雌 **1,881円** (先月比 ↓ 274)
- 乳用交雑種雌 **1,174円** (先月比 ↓ 255)

肉牛市場〈黒毛和種251-300kg〉kg単価推移



肉牛市場〈F1〉kg単価推移



2020 4 April						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29 OPEN	30		

2020 5 May						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2020 6 June						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2020 7 July						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19 イベント	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



2020 8 August						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2020 9 September						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13 イベント	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2020 10 October						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18 イベント	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2020 11 November						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8 CLOSE	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

- 4月29日 開店イベント
- 7月21日 サマーイベント
- 9月13日 収穫祭
- 10月18日 どんとこい祭り
- 11月 8日 閉店イベント

各イベントの開催時刻は、9:30～14:00頃となります。数に限りがございますので、売切れの場合はご容赦ください。また、10月開催予定のどんとこい祭りは、開始時刻が異なりますのでご注意ください。

営業時間

4月～9月 9:30～17:00
10月～11月 9:30～16:00

定休日

毎月 第2・第4 火曜日
毎週 水曜日

J A 忠類農畜産物直売所

菜の館 ベジタ

〒089-1701 中川郡幕別町忠類白銀町383番地3
TEL / FAX 01558-8-3303

JA組合員の皆様へ

NTT設備事故防止のお願い

拝啓 時下皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より、弊社の電気通信事業に対し、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、農作業時期をむかえ作業が活発になるこの時期は、弊社電話設備に農業機械や農作物運搬車両等による事故が多発する傾向にあります。

万が一事故が発生した場合、一般の電話やインターネット等の通信のみならず、110番119番が繋がらない等、人命に関わる大きな問題に波及しかねません。

例年、特に畑への出入りの際に電話ケーブルを切断する事故が多発していることから、大型農業機械・ユニック車・運搬車両の荷台等収納状態、電話線等の距離を確保していただき事故が起きないようにご協力をお願いいたします。

【事故が発生させた場合】
多額の復旧費用を負担して
頂くこととなりますので、
ご理解のほど宜しくお願い
いたします。



< もし事故を起こしてしまったら >
NTT東日本-北海道 局番なしの113番へ
[携帯電話からは 0120-444-113へ]

< 本件の問い合わせ >

NTT東日本-北海道 北海道東支店 設備部 サービスセンタ
〒080-0803 帯広市東3条南12丁目2番地 NTT東ビルB棟3F
Tel 0155-23-7964